



第3課 親しくなるきっかけを作ろう (3)

— その場の話題探し —

扉

導入

第3課では、その場にいる人・その場にあるものを話題にして、友だちと親しくなるきっかけを作ることを目指します。会話の途中で話すことがなくなってしまった場合、気まずい沈黙を作らないように、すぐに話題を見つけて会話を続けると、お互い気持ちよく過ごせます。これにより、その会話を通してお互いのことを知る機会もでき、親しくなるきっかけが作れます。

ここでは、まだそれほど仲良くない人と話していて沈黙してしまったことがないか、ある場合は、そのときどうしたかを具体的に学習者に話しあわせてみましょう。

よくあるもやもや

- まだそれほど仲良くない人と話していて、気まずい沈黙が起きた経験はないか、学習者に確認し、挙手させます。 → **POINT 1** **POINT 2** **POINT 3**
- 話を聞く側と話をする側の悩みです。まだそれほど仲良くない人と会話をしていて沈黙が起きてしまったとき、次にどんな話題について話せばいいかわからなかったことはないか、学習者に確認し、挙手させます。 → **POINT 1** **POINT 2** **POINT 3**

イラスト

STEP1 の〈もやもや会話〉の内容をイラストで表したものです。上級学習者にはこのイラストを見せながら、文字情報なしに会話のだいたいの内容や問題を把握させると良いでしょう。具体的な問題について考える作業は、次ページからのSTEP1で行うので、ここではあまり時間を取る必要はありません。



STEP1 考えよう

もやもや会話

【会話の内容と登場人物の心情】

大学のカフェで、さくらさんと静さんが話をしています。二人は楽しく話していましたが、話が終わってしまい、次に何を話せばいいか困っています。二人は気まずい雰囲気になり、さくらさんはまわりをきょろきょろ見はじめ、静さんは水を飲んだり、スマホを見たりしはじめました。そのあと、さくらさんが今日の授業について新たに話しはじめますが、これもまたすぐに話が終わってしまい、話がなかなか続きません。この会話がなぜ続かないか、そのポイントを考えさせます。

質問

【解答例】

- ① さくらさん…まわりをきょろきょろ見はじめた。
静さん…水を飲んだり、スマホを見たりしはじめた。
- ② このあとの予定や明日の予定／天気の話／相手の趣味の話 など

【指導のポイント】

- さくらさんと静さんの二人が困っているところ、つまり、二人とも会話の中で沈黙が起きているところはどこか考えさせます。
- 沈黙のあと、次にどんな話題について話せばいいか考えさせます。
※ 質問の解答例②のように、沈黙を避けるために天気や趣味といった話題が学習者からよく挙げられます。これらの話題ももちろんいいのですが、初対面ではなく関係が深まりつつあるときに、会話を通してよりお互いのことを知りあうことができ、関係を深めていけるような話題作りを学習していくという流れで話すと、課のポイントがより明確になります。

スッキリ会話

<もやもや会話>と比べて、会話が楽しく続いていることを確認します。「<もやもや会話>の下線部のところは、POINT のような表現を使うと、会話がスムーズに続くようになります。そのポイントについて学習しましょう。」というような声かけを行い、次のSTEP2につなげてください。各POINTについて、ここで話しあったり、解説したりする必要はありません。



STEP2 学ぼう

POINT 1 その場にいる人・その場にあるものを話題にする

【指導のポイント】

- ここでのポイントは、その場にいる人・その場にあるものを話題にすることで、気まずい沈黙を避けることです。前の話題が終了したあとや少し沈黙があったあとで、この会話を始めます。
- その場にいる人・その場にあるものを話題にしたあとに、その人・ものに対する自分の評価・状態・様子を話します。その際、ただ単に目に入った人・ものについて話すのではなく、自分が興味を持った人・ものについて話すと、話が広がり、会話が続けやすくなります。

練習 1

■ p.39 のイラストを見て、興味を持った人・ものとその理由をクラスで話す

【解答例】

- 興味を持った人・もの…赤ちゃんを連れた女の人。
理由…ケーキか何かをととても幸せそうな顔をして食べている。 など
- 興味を持った人・もの…外にいる犬。
理由…もこもこしていて、とてもかわいい。 など
- 興味を持った人・もの…左側にいるカップル。
理由…パフェを食べさせあったりして、ラブラブだから。 など

【指導のポイント】

- 「表現」の「その人・ものに対する評価・状態・様子」を表す言葉は、「便利なことば」（ダウンロード）を参照ください。
- ここで興味を持った理由をいろいろと具体的に学習者に考えさせてクラスで共有しておくこと、次の「ペアで話す」練習がスムーズに進みます。

■ ペアで話す

【解答例】

- 〔 A : あ、あのウェイトレス、すごくヒール高い靴だから、震えながら運んでる。
 - 〔 B : ほんと！ ケーキとか落としそうで、あぶないなあ。
- 〔 A : あ、あの猫、魚くわえて走ってる。
 - 〔 B : ほんとだ！ うれしそうだね。あの池から獲ったのかなあ。



【指導のポイント】

- クラスで話したことを踏まえ、興味を持った人・ものについてペアで話をさせます。
- BはAの話の聞いて、自分もその人・ものに対する評価・状態・様子について話します。
- その場にいる人について話すとき、その人の批判にならないように注意することが大切です。その人のいい点（例：幸せそう、ラブラブだ など）やその人の気持ちを考えた表現（例：暑そう、困っていそう など）を使わせると良いでしょう。
- このあとも話を続けて練習をさせましょう。新しい話題を見つけても話がすぐに終わるようなら、一つの話について話を深めるようにさせてください。詳しくは、コラムを参照してください。

タスク

【指導のポイント】

- その場にいる人・その場にあるものについて話題がうまく探せない学習者には、どのような話題があるか、あらかじめクラスで共有してから練習を始めると、スムーズに進みます。
- タスク話題例：「あ、あの教室のパソコン、めっちゃ古い。」「あ、〇〇さん、すごく眠そう。」「(外を歩いている人を見て) あ、あの人、何かおいしそうなもの食べながら歩いてる。」など。
- このあとも会話を続けて練習させてみましょう。

POINT 2 相手の持ち物を話題にする

【指導のポイント】

- 話題転換の言葉「話変わるけど」などは、前の話題が一旦終了したあと、次の新しい話題（ここでは相手の持ち物の話）を始めるときに使います。先ほど相手と会ったときに気づいていただけども、そのときは話せなかったの、しばらく時間が経過した今、それについて話すというときは「さっき見て思ったんだけど」「さっき言おうと思ったんだけど」などの言葉を使います。これらの言葉がないと、唐突に話しはじめる印象を与えてしまいます。
- 相手の持ち物に対する良い評価は、な形容詞・い形容詞を主に使います。
- ほめられた場合の返事は、テキストで紹介した以外にも、いろいろありますので、学習者からそのような答え・質問が出た場合などに、クラスで紹介してもいいでしょう。次の例も参考にしてください。(A: ほめる側、B: ほめられる側)

例) A: そのスニーカー、めっちゃいい色だね

• B: そうでしょ? / そうだろ? <受け入れ>

• B: 私 / おれ / ほくもそう思う。 <受け入れ>

• B: Aのスニーカーも、めっちゃいい色だね。 <回避>

• B: そう? / ほんと? / そうかな。 <回避>



練習 2

【解答例】

さくらさん…髪（さらさら）、スカーフ（春っぽくてきれいな色）、自転車（速そう） など
 マイクさん…スーツ（新入社員みたいでかっこいい）、ヘッドホン（新しそう） など
 山ちゃん…カメラ（プロみたい）、ヘアスタイル（似合ってる）、リュック（いい色） など

【指導のポイント】

- ここで、さくらさん、マイクさん、山ちゃんそれぞれの持ち物のうち、どれに興味を持ったか、それはなぜかを学習者に考えさせ、クラスで共有しておく、次の練習3がスムーズに進みます。

練習 3

【解答例】

さくら

- 〔 A : その自転車、速そうだね。
 - 〔 B : ありがとう。サイクリングのサークルで使ってるスポーツタイプなんだ。
- 〔 A : その服、さわやかだね。
 - 〔 B : ありがとう。この前一目ぼれして買ったんだ。

マイク

- 〔 A : そのスーツ、新入社員みたいでかっこいいね。
 - 〔 B : ありがとう。今日は就活用の写真を撮りに行くんだ。
- 〔 A : そのヘッドホン、新しそうだね。
 - 〔 B : ありがとう。実は、先週買ったばかりなんだ。

山ちゃん

- 〔 A : そのカメラ、プロみたいだね。
 - 〔 B : ありがとう。めっちゃ高かったんだ。
- 〔 A : そのリュック、いい色だね。
 - 〔 B : ありがとう。山が好きだから、緑にしたんだ。

【指導のポイント】

- 練習2を思い出しながら、自分が興味を持ったものをほめるように注意させます。
- 例は「話変わるけど」という話題転換の言葉が入っているので、前の話題が一旦終了したあとに、新たな話題としてこの会話が続くことを学習者に確認しておきましょう。
- 仲が良い大学生同士の会話で、B（ほめられる側）の自分の持ち物に対するほめへの返事は、「ありがとう。」（受け入れ）がよく使われますが、「あ、これ？」（回避）も可能です。



タスク

【指導のポイント】

- ほめ・気づいたことの手言葉があまり出ない場合は、先ほどの練習 1・2 を使いながら、どんな言葉があるかクラスで共有しておきましょう。
- 何をほめるか、ほめないかは、文化によって差があります。体の特徴など、ほめられた相手が違和感を持たないように注意しましょう。
- 上級の学習者には、このあとも話を続けて練習させてみましょう。新しい話題を見つけても話がすぐに終わるようなら、一つの話題について話を深めるようにさせてください。詳しくは、コラムを参照してください。

POINT 3 その場にいる人の話題をきっかけに、自分たちについて話す

【指導のポイント】

- ここでのポイントは、その場にいる第三者の特徴について話すことをきっかけにして、自分たちの特徴についても話し、沈黙を避けることです。
- POINT2の「指導のポイント」同様、その人の批判にならないように注意することが大切です。
- 自分たちの特徴を話すときは、その場にいる人（第三者）の特徴とは対照的な特徴を話すと良いでしょう。ただし、次の例①のように、会話の相手がそれを聞いて、嫌な気持ちになる表現は避けましょう。②のように、おもしろい内容なら話しやすいです。

例 ① A：あ、あの人たち、楽しそうだね。

B：それに比べて、私たち、つまらないね。×

② A：あ、あの人たち、お金持ちっぽいね。

B：それに比べて、私たち、めっちゃ庶民っぽいね。○

練習 4

【解答例】

- 1) ほんと！ それに比べて、私／おれ／ぼくたち、連日テストでぐったりしてる。
- 2) ほんとだ。それに比べて、私／おれ／ぼくたち、何にもしないで涼しいところでじっとしてる。
- 3) ほんと。それに比べて、私／おれ／ぼくたち、3時間もぶらぶらしてるのに、何にも買ってない。

【指導のポイント】

- 前の話題が一旦終了したあとに、新たな話題としてこの会話が続くことを学習者に確認しておきましょう。



タスク

【指導のポイント】

- STEP2 練習1の会話場面 (p.39) でなくても、今学習者がいる場の人について話すことができれば、その場の人について練習しましょう。
- 第三者の批判になっていないか、会話の相手を嫌な気持ちにさせていないか注意が必要です。
- 上級の学習者には、このあとも会話を続けて練習させてみましょう。新しい話題を見つけても話がすぐに終わるようなら、一つの話題について話を深めるようにさせてください。詳しくは、コラムを参照してください。

STEP3 お互いについて知ろう

話そう

第3課では留学生が大学生活でよく使いそうな場면을提示しています。なかなか話すことが思いつかないペアには、これらの場面から考えられる話題や、その場にいる人・その場にあるもので興味があるものは何かなど、教師が質問しながら、話題作りをサポートすると良いでしょう。

【場面例】

場面を意識した会話の始め方、沈黙のあとの話題の始め方に注意させます。

【場面を意識した始め方の例】

A: あ、B君、おはよう。

B: あ、Aちゃん、おはよう。あれ、今日は早いね。

A: うん。今日は3限が早く終わったんだ。B君も早くない?

B: おれは3限休講だったんだ。先生、アメリカに出張らしいよ。

A: そうなんだ。休講、いいなー。

B: うん。でも、2限あったから、3限空いちゃって。ぼーっとしてたよ。

A: そうなの?...

(しばらくして)

A: さっき見て思ったんだけど、B君、そのリュック、めっちゃ便利そうだね。...

【三者会話の場合】

学習者 A、B、C がいた場合、二人で「ほめる → 返事をする」を行います。二人が会話しているとき、もう一人はあいづちを打ったり、共感を示したりします。(うん、本当。/うん、便利そう。/そうなん



だ。 など) そのあと、三人でその話題について会話を続け、その話題について話しくします。これを、相手を変えながら、順番に行います。(A、B、Cは先ほどとは違う役割をする)

<会話録音の流れ>

1課を参照してください。

発表しよう

【フィードバック上の注意点】

■全課共通

- カジュアルな会話にふさわしい表現を使えているか。
- 場面を意識した始め方ができているか。

■3課

- POINT1・2・3で扱った表現パターンが適切に使えているか。
- 唐突に話を始めなかったか。(「あ、」「話変わるけど」などを使ったか)
- その場にいる人・その場にあるものの中から、話題が見つけられていたか。
- 相手の持ち物・服装・ヘアスタイルについての話題が見つけられていたか。
- ほめられた人は、返事ができていたか。
- 第三者の特徴の話題をきっかけに、自分たちの特徴についても話せていたか。
- 第三者の批判になっていないか。

【学習者の会話例と、フィードバック例】

学習者の会話例

1 A: あー5限の授業いややわ、もう帰りたい。

2 B: あーいやだね、私も今日1限から授業あったしー、もう疲れたわー。

3 A: だよねー、あ、あの二人最近めっちゃ仲良くしてるね。

4 B: あ、そうだねー。なんか私はいつも食堂に行くとき、あの二人はいつも一緒に

5 ごはんを食べてるしー、うん付き合ってるのかなー。

6 あ、そういえばあの、Aさん、彼氏いるの？

7 A: あ、いるいるー。Bさんは？

8 B: 私はいないふふふ。



9A：えー彼氏がほしい？

10B：楽しい？

11A：ほしい？

12B：ああ、ほしい、いや、別にほしくないわー。

13A：えーなんでー？

14B：まあ、最近は勉強とかー就活でーなんかめっちゃ忙しかったのでー

15 男なんか時間なかったんだー。

16A：そっかそっかー。

17B：さびしいかなあ？

18A：あはは。

フィードバック例（教師のコメント例）

★カジュアルな会話にふさわしい表現か

- 全体的にカジュアルな会話にふさわしい表現を使えているのがいいです。
- 14行目「ので」は「から」に変えたほうがいいでしょう。

★場面を意識した始め方ができているか

- 「次の5限の授業が嫌だ」という場面を意識した会話の自然な始め方ができています。

★3課の学習項目について

Aさんへ

- その場にいる人・ものの中から、うまく話題が見つけれられています。
- 3行目「あ、（あの二人〜）」と会話を始めているので、唐突ではなく、相手の注意を引いてから話を始められています。
- 話題にした人・ものについて、評価・状態・様子を表す言葉がうまく使えています。
- そのあとも、7行目「Bさんは？」と、うまく会話が続けられています。

Bさんへ

- Aさんのその場にいる人の話題から、自分たちの話題へと会話がうまく続けられています。
- 特に、6行目「そういえばあの」という言葉を使い、そのあと6行目で「Aさん、彼氏いるの？」と、自分たちの話題に引き付けているので、話題が盛り上がりそうです。
- Aさんの9行目「えー彼氏がほしい？」という質問のあとに、Bさんは10行目「楽しい？」と聞いていますが、Bさんの17行目「さびしいかなあ？」のあとに「（彼氏がいると）楽しい？」と聞くと、そのあとAさんに彼氏のことを話してもらいやすくなり、会話がもっと続くかもしれません。



コラム③ 話を深める方法って？

【指導のポイント】

- 3課で学んだその場にいる人・その場にあるものなどを利用して話題を見つけたあと、その話題を深めて会話を続ける技術です。
- 時間がない場合は取り上げる必要はありませんが、STEP2 やSTEP3 で学習者にこのような問題が出てきた際に、適宜コラムのページを一緒に見ながら指導していただくといいでしょう。
- 学習者の実際の発話例などを使いながら、発話中のどの話題をもっと深めるといいか、どのような話を続けて深めるといいか、クラスで一緒に考えてみる時間を取ってもいいでしょう。